

このたびは、弊社墜落制止用器具（ハーネス型安全帯）をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品は、労働安全衛生法第42条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に準拠して製造したものです。

ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読み頂き、本製品の装着方法・使用方法等についてご理解の上ご使用ください。

また胴ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれに付属の取扱説明書に従ってご使用ください。

なお、間違った装着や使用方法によっては死亡事故につながる可能性がありますので、警告・危険・注意の各項目は特によくご理解頂いた上でご使用ください。この取扱説明書は大切に保管し、万一紛失された時は当社へご請求ください。

1. 用途 注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。

U字吊り・宙吊りなど体重をかける作業には使用できません。

- ・高所作業を行う際に弊社製ランヤード（別売）を取り付けて、またはブロックリール等の墜落防止装置を連結し、墜落等の災害防止に使用します。

2. 使用上の注意事項 危険 誤った使い方をすると墜落等の恐れがありますので絶対やめてください。

- ① 胴ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれの取扱説明書に従ってご使用ください。
- ② ご使用前には必ず「5. 日常の点検と廃棄」にしたがって点検し、異状がないか確認してください。
- ③ ランヤードまたブロックリール等の墜落防止装置は、背中のD環に確実に取り付けてください。
それ以外の個所に取り付けた場合は墜落時にベルトや連結部分が破損し、墜落を阻止できない場合があります。
- ④ 3PHN・3PHNW/4PHN・4PHNW 型は胴ベルト（別売）を組み合わせで装着してください。（胴ベルト型墜落制止用器具併用でも可）
- ⑤ それぞれのハーネスに取り付けできるランヤードは、「フルハーネス型」の表示のあるショックアブソーバ付ランヤードです。
これら以外のもの、または他社製のランヤードは取り付けてはいけません。
- ⑥ 小型フック付ランヤードを取り付けるときは、**小型フックの開口部が外に向くように取り付けてください。**
- ⑦ ランヤードのフックは、**できるだけ高い位置に取り付けてください。**
- ⑧ ハーネス型安全帯は背中のランヤード取り付け点でぶら下がるため、腰でぶら下がる胴ベルト型安全帯と違って墜落時に足先が到達する距離が長くなります。
必ず実際に作業する箇所の下に、ショックアブソーバに記載された「落下距離」以上の空間があることを確認してご使用ください。
- ⑨ 本来の性能を発揮できなくなる場合がありますので、ご自分での修理・改造は絶対にしないでください。
- ⑩ 2丁掛け仕様でそれぞれにショックアブソーバの付いた2本のランヤードを使用している場合、2本のフックを同時に掛けている状態で墜落すると、通常より高い衝撃荷重が加わることがありますので、2本のランヤードのフックを同時掛けで使用する場合には、1個のショックアブソーバに2本のランヤードがついたタイプをご使用ください。

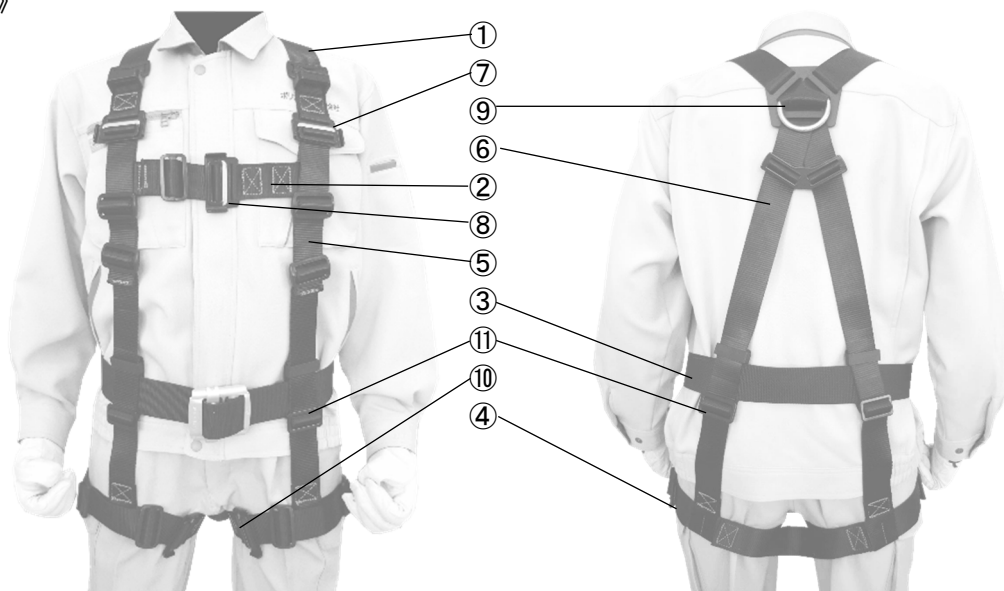
3. 構造と各部の名称及び正しい装着例（形状は一例 左右対称の部品名は省略）

①肩ベルト ②胸ベルト ③胴ベルト(別売) ④ももベルト ⑤前ベルト ⑥背ベルト ⑦連結調節環
⑧胸バックル ⑨D環 ⑩ももバックル ⑪胴ベルト固定具 ⑫樹脂プレート ⑬尻ベルト

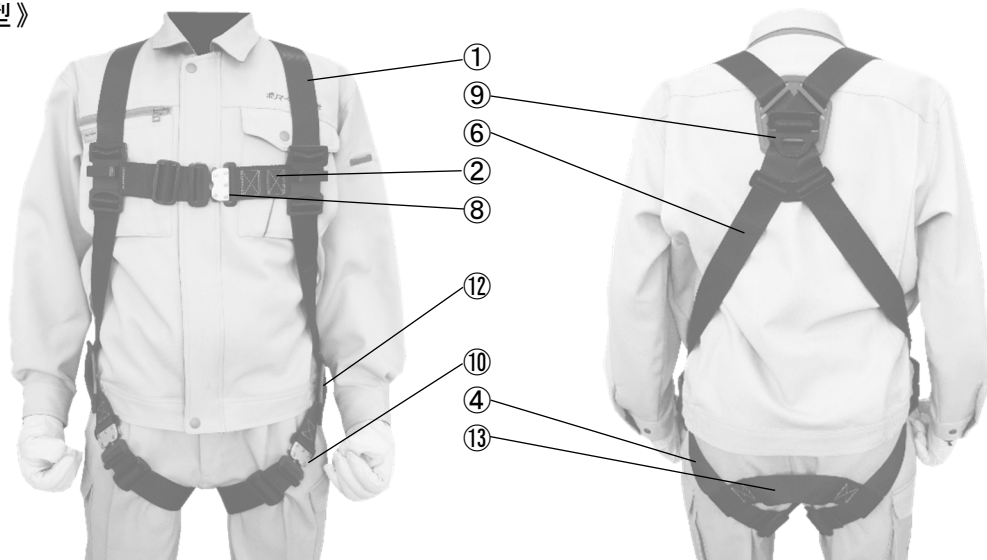
《3PHNW 型》



《4PHN 型》



《4PVNW 型》



4. 装着方法



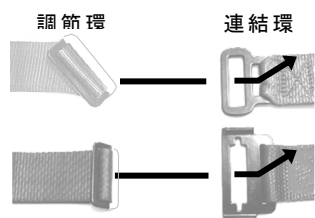
警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

- ・各ベルトを装着するときは必ずベルトにねじれやゆるみがないか確認しながら装着してください。ねじれたり、ゆるんだまま装着し墜落した場合、本来の性能を発揮できない場合があります。
- ・各部の連結調節環、バックルが正しく連結されているか確認してください。間違った連結方法で墜落した場合、連結部が外れたりベルトがゆるむ場合があります。
- ・D環は肩甲骨の間の中心付近になるよう位置と高さを調節してください。
- ・胸ベルトはみぞおち付近の高さになるよう位置を調節してください。みぞおちより上にすると墜落制止時にベルトの伸び等で首を圧迫する場合があります。

《連結調節環・バックルの連結・調節方法》

連結調節環・バックルの連結方法



調節環を連結環の裏から表へ通して連結してください。



銀色部分がこちら側

連結後は、調節環の銀色部分が連結環のベルト取付け側（縫い目側）になっていることを確認してください。

連結調節環・バックルのベルト長さ調節方法



長くする時

連結調節環・バックルを指で起こし、内側のベルトを引っ張ってください。

※ベルトの長さを長くしたとき、外側のベルト長さが5 cm より短くならないように調節してください。



短くする時

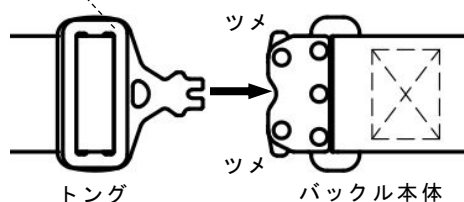
連結調節環・バックルを指で起こし、外側のベルトを引っ張ってください。

《ワンタッチバックル（タイプ別装備）の使用方法》

装着するとき

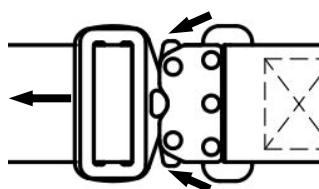
バックル本体に Tongue を「カチッ」という音がするまでさし込み、上下のツメが同じ角度になっていることを確認してください。

Tongue バー



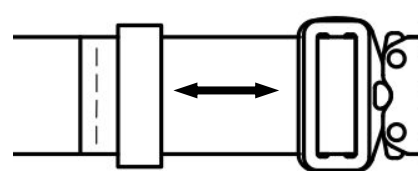
取り外すとき

ツメを上下同時に押しながら Tongue を抜き取ってください。



長さの調節

Tongue 側のベルトをいずれかの方向に送って調節してください。

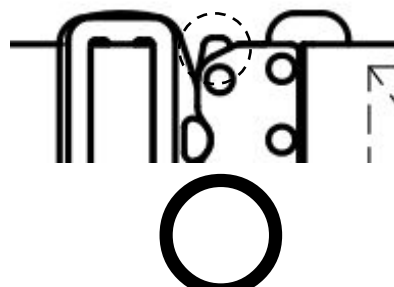
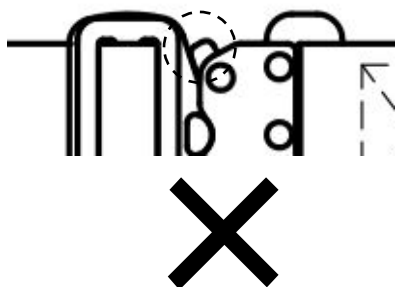


※注意

調節後はベルトの折り返した長さが 5 cm 以下にならないこと

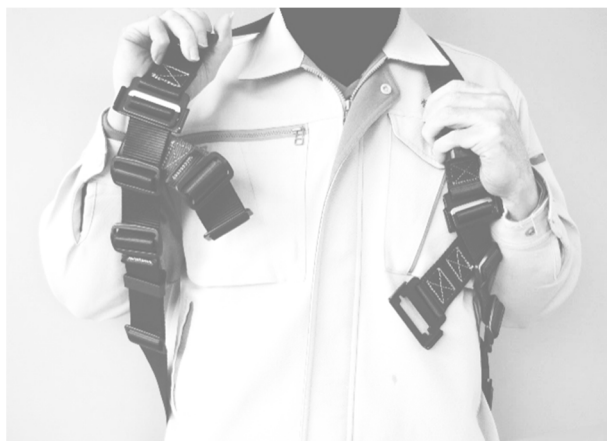
※ご注意ください

バックル本体のツメの状態が下図の×のようになっている（両方又は片方のツメが○の状態になっていない）ときは、正しく連結できていないか、バックル本体に不具合がある状態のため、バックルが外れる場合があります。装着したときはもちろん、使用中にも時々確認してください。



《ハーネスの装着》

●3PHN・4PHN 型（形状は一例）



① 胸ベルト・胴ベルト（別売）のバックルを取り外し、D環を背中側にして肩ベルトに腕を通してください。



② 胸ベルトのバックルを連結し、前ベルトの間隔が作業服の胸ポケット中心くらいになるように胸ベルトの長さを調節してください。



③ 左右のももベルトのバックルを片方ずつ外し、その位置が股下になるように前ベルトと背ベルトの長さを調節した後、ももにベルトを回してから連結してください。



④ ももベルトはももにフィットするようにベルトの長さを調節してください。



⑥ 最後に各ベルトにねじれやゆるんでいる部分がないか、各連結部分は正しく確実に連結されているか確認してください。
また、D環・胸ベルトが正しい位置と高さになっているか確認してください。

●4PVNW 型（形状は一例）



① 胸ベルトのバックルを外し、D環を背中側にして肩ベルトに腕を通してください。



② 胸ベルトのバックルを連結し、前ベルトの間隔が作業服の胸ポケット中心くらいになるように胸ベルトの長さを調節してください。



④ 左右のももベルトのバックルを片方ずつ外し、樹脂プレートが腰骨の横で、ももバックルの位置が写真のようになるようそれぞれ調節してください。



③ ももにベルトを回してからバックルを連結し、フィットするよう長さを調節してください。

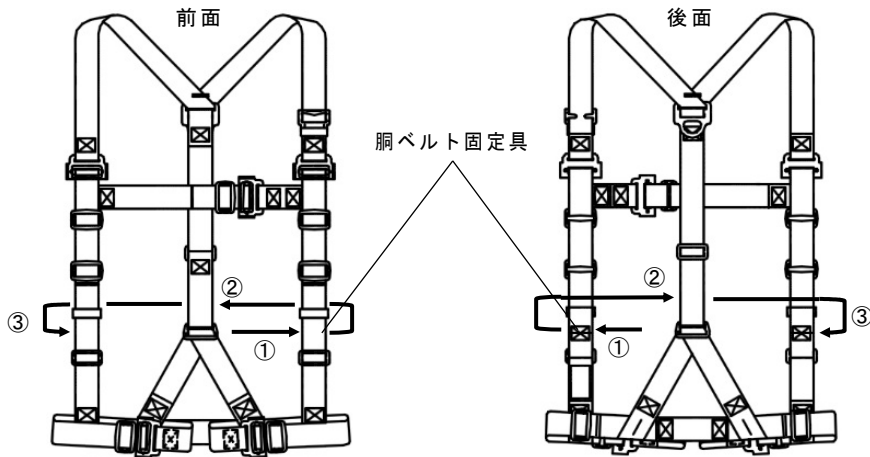


⑥ 最後に各ベルトにねじれやゆるんでいる部分がないか、各連結部分は正しく確実に連結されているか確認してください。
また、D環・胸ベルト・尻ベルトが正しい位置と高さになっているか確認してください。

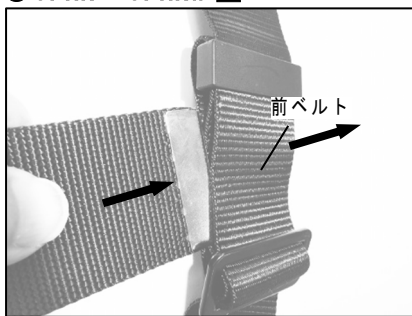
《胸ベルト（別売）の装着方法》（形状は一例 左右対称の部品名は省略）

※胸ベルトは腰骨の位置になるよう「胸ベルト固定具」「樹脂プレート」の位置を調節してください

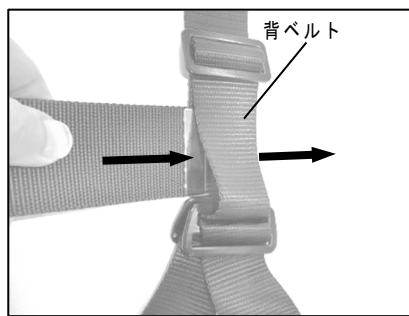
●3PHN・3PHNW



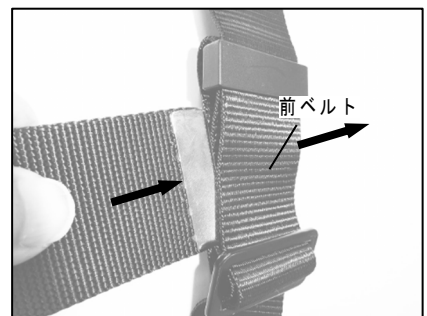
●3PHN・3PHNW 型



① 前面右側の前ベルトと胸ベルト固定具の間に胸ベルトを通してください。



② ハーネス本体を後面から見て、背ベルトと尻ベルトの連結部のベルトの間に胸ベルトを通してください。



③ 残った胸ベルト固定具に胸ベルトを通して下さい。最後にねじれている部分がないか確認してください。

●4PHN・4PHNW 型

「3PHN 型」の手順①・③で前後 2 カ所ずつ計 4 ヶ所の胸ベルト固定具に通してください。

●4PVN・4PVNW 型（形状は一例）



① 両サイドのベルト交差部の樹脂プレートとベルトの間に胸ベルトを通してください。



② ワンタッチバックル付胸ベルトの金具を通す場合は、ベルトを少し引き出し、隙間を作ってから通してください。

5. 日常の点検と廃棄



警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

- ・胴ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- ・毎回使用前後に各項目を点検し、一つでも該当する項目があるものは直ちに使用を中止してください。
- ・各項目に該当しない場合でも経年劣化による強度低下が発生しますので、**使用開始から3年を目安として新品と交換してください。**（使用開始時には、製品のラベルに「使用開始年月」を必ず記入してください）
- ・墜落等によって一度でも大きな荷重が加わったものは、外観に異状がなくても再使用しないでください。

点検箇所	点検項目
各ベルト	● 耳部または巾の内側に2mm以上の切損・焼損がないか ● 薬品やペンキ等の付着によって溶けたり、硬くなっている部分がないか ● 著しく磨耗している部分はないか ● コンクリート等の異物が付着していないか
縫糸	● 縫目が1ヶ所以上切れていないか
金具類	● 変形やサビの発生している個所はないか ● 樹脂コーティングが磨耗または剥離し、金属表面が露出していないか ● 深さ1mm以上の傷はないか
その他	● 変形や破損等によって本来の機能を失っていないか
ワンタッチバックル	● 変形している個所はないか ● リベットのかしめ部にガタや変形はないか・・・① ● 深さ1mm以上の傷はないか・・・② ● わずかでも亀裂はないか・・・② ● トングとベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるまないか・・・③ ● トングバーの動きが悪く、ベルトがゆるまないか・・・④ ● バックルが正しく結合できるか・・・⑤ ● ツメが正常に作動するか・・・⑥ ● 全体に腐食していないか ● 可動部等に拭き取れない塗料などの付着がないか

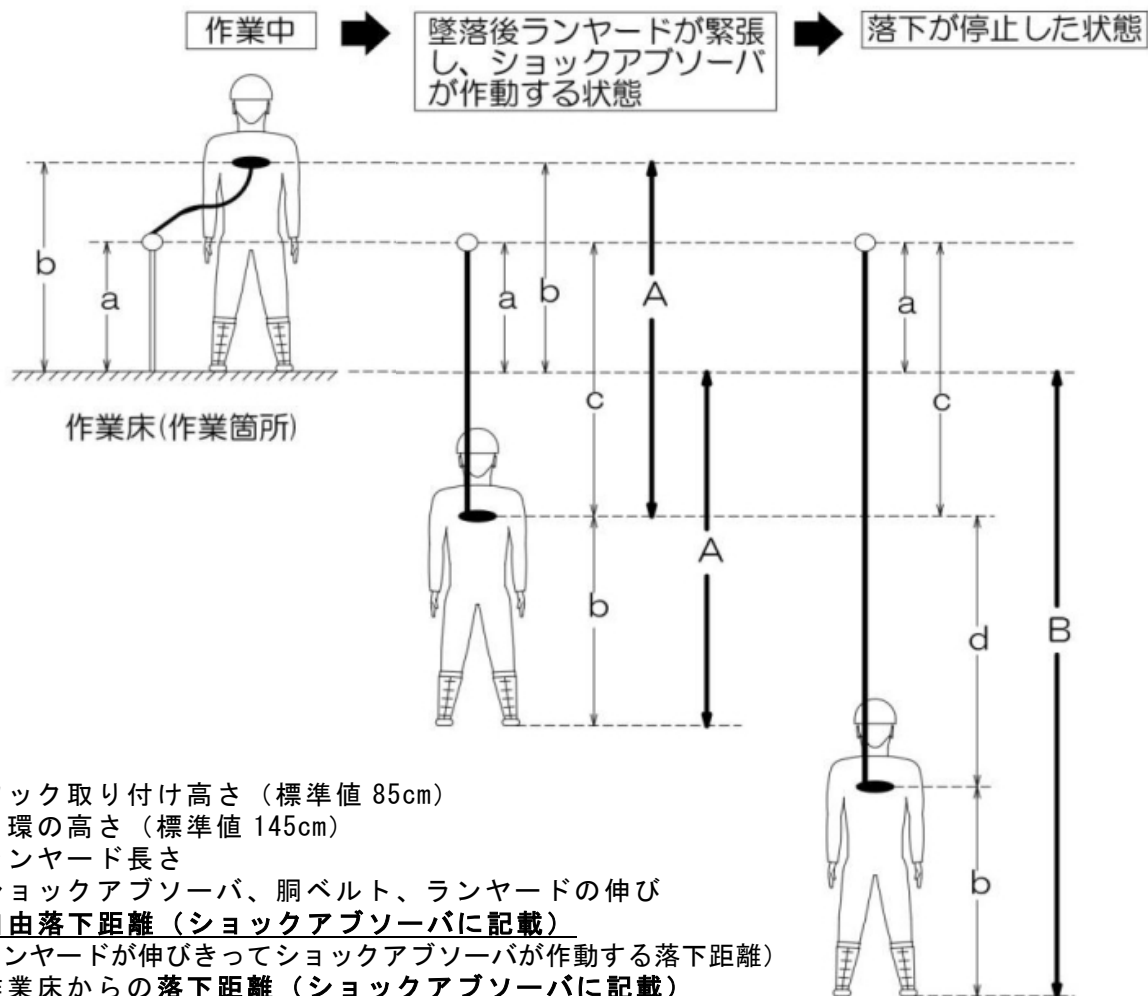
6. 落下距離の確認



警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

・下図の内容をご理解の上、作業個所ごとに確認してからご使用ください。



※必ず実際に作業する個所の下に「落下距離」以上の空間があることを確認してから、ご使用ください。

7. お客様相談窓口

この製品についてご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。

販売元：ジェフコム株式会社

〒579-8014 東大阪市中石切町3-13-16
 TEL 072-986-5900
 FAX 072-986-6852

製造元：ポリマーギヤ株式会社